評価番号 OAO 33 00－00－00

受付番号 00－00－00

耐 震 改 修 計 画 報 告 書

○○○○○○○○○○○○

作成年月日：平成○○年○○月○○日

申　込　者：○○○○○　○○　○○

耐震改修計画者：○○○○○○○○○○○

目　　　　　次（参考）

§１．現況診断概要

　１．建築物概要　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　P 1－1

２．診断概要　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　P 1－0

　３．現況図　 P 1－0

　４．診断結果概要　 　　 P 1－0

§２．改修計画概要

１．改修方針と診断フロー　　　 P 2－1

　２．改修項目　　　　 　　 P 2－0

　３．追加調査結果　　 　 P 2－0

　４．診断結果概要　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 P 2－0

§３．改修計画図

　１．改修計画図　　 　　　　　　　　 P 3－1

§４．改修計画項目別診断結果

　１．項目別診断結果　　　　 P 4－1

§５．添付資料

　１．設計図　　　　　　　　　　　 P 5－1

　２．現地調査報告書 P 5－0

　３．コンクリート強度試験報告書、中性化試験報告書　　　　　　　　　P 5－0

　４．耐震診断判定書（現況診断）　　　　　　　　　　　　　　　　　　P 5－0

　注）第１～３章は考え方や判断等の数値をもとに、文章で診断内容を説明してください。

［報告書作成上の注意事項］

０．報告の作成は片面印刷を原則としてください（ページ追加が必要な場合の対応）。

　　報告書提出後にページを追加する場合、枝番表記（P1-2-1、P1-2-2等）としてください。

１．表紙の受付番号は初回提出時に記載し、評価番号は最終ダイジェスト版提出時に記載してください。

２．参考目次は報告書作成上の具体例ですが、§１～§５までの構成順は守ってください。

なお、その他に章立てが必要な場合には§６以降に追加してください。

３．各章の項目構成は、評価する物件に合わせて作成してかまいませんが、参考目次を原則としてください。判定に当たり必要な項目構成になっています。

４．§１の各項目は現況診断時の概要をわかりやすく整理してください。特に、改修計画に関連する事項は少し詳細に明示してください。

５．§２は改修計画の概要と耐震性評価の概要を整理して判りやすくまとめてください。

改修計画の詳細は§３に、耐震性評価の詳細は§４にまとめてください。

上部構造の主な改修の方向として以下の方法が想定されますが、どの方向によるのかを明示してください。

　　　① 強度抵抗型：強度の強い耐力壁を増加して、建物全体を強くする方法

　　　② 靱性確保型：粘り強さを増して、変形に伴うエネルギー吸収により倒壊を防ぐ方法

　　　③ 制震工法型：地震のエネルギーを制振装置等によって吸収し、応答を低減する方法

　　　④ 免震工法型：免震装置等により、建物への地震力の入力を小さくする方法

　　改修の項目は現況診断時の指摘事項に従い、改修の方向に合わせて具体的な改修計画を項目別に整理してください。

現況診断時調査に追加で調査を加えた場合は現況診断と同様に整理してください。

改修後の診断結果は現況診断時と同様に結果を整理してください。

　　この結果は判定書作成時の主な参照先になります。

６．§３は改修計画の詳細な内容全体を改修計画図を添付してまとめてください。

改修計画図には改修箇所が判りやすいように赤字等で明示してください。

７．§４では§３に整理した改修計画の安全性確認の根拠となる設定や計算結果、電算データ等を現況診断と同様の項目別に整理してください。

８．§５には添付すべき資料を中心に現況診断時の耐震診断判定書、各調査報告書や現況図面等を添付してください。